

# 令和5年（2023年）度行政評価シート

令和5年8月10日

評価者	共生共創部長 服部基己
-----	-------------

## ○ 施策の概要

総合計画上の位置付け	分野	1-(3) 多文化共生社会	施策の方針	1-(3)-①多文化共生社会の推進
目標とするまちの姿	国籍や民族の異なる人々が互いの文化を認め合い、相互に交流、協力し合うことで、共生社会への取組が進んでいます。また、様々な国籍・文化の人々が安心して快適に生活できる環境が整備されています。			
主な取組	(1)国際理解・交流・協力活動への支援・促進 市民・市民団体と連携しながら講座やイベントを開催するとともに、学校教育の場での国際理解教育を通じて、市民の国際理解の促進を図ります。 (2)外国籍市民が暮らしやすい環境の整備 外国籍市民への行政情報の提供や、学校教育の場での対応の充実に努めます。			

### 1. 前年度(評価対象年度)の当該施策の目標

#### 共生共創部

新たな提携先について、新型コロナウイルス感染症の収束状況や国際情勢も鑑み、検討する。
--

### 2. 投入コスト

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業費	188	5,009	564			
人件費	16,450	11,424	8,486			
総事業費	16,638	16,433	9,050	0	0	0

### 3. 施策の方針にひもづく事務事業とその評価結果

重点事業	整理番号	事業名	法定受託事務	事業費(千円)	人件費(千円)	総事業費(千円)	事業評価	貢献度	最終評価
	共生-20	国際交流推進事業		380	4,688	5,068	現状維持	B	現状維持
	共生-21	都市提携事業		184	3,798	3,982	現状維持	B	現状維持

### 4. 評価対象年度の実施内容

#### 共生共創部

<ul style="list-style-type: none"> <li>外部講師を招いて「みんなで考える難民問題」と題したワークショップを開催し、市民17名の参加を得た。</li> <li>市内を中心に活動する鎌倉市国際交流・協力団体連絡会加盟団体等で構成される実行委員会と市の共催で、鎌倉大仏殿高德院にて「かまくら国際交流フェスティバル2022」を開催した。</li> <li>足利市との姉妹都市提携40周年を記念し、市内小学校で鎌倉・足利両市の郷土料理であるけんちん汁及び栃木県産の食材を使用した給食の提供を行うとともに、希望する学校では、足利市からの外部講師による特別授業をオンライン又は対面にて行った。</li> </ul> <p>※実施できなかった事業とその理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>都市提携に係る、姉妹都市等との対面での交流(訪問又は歓迎)については、コロナ禍が収束に至らなかったこと、また、ロシアによるウクライナ侵攻を踏まえた世界情勢に鑑み、実施を見送った。</li> <li>市民通訳ボランティアの派遣については、外国籍市民等から利用の要望がなかったため、実施に至らなかった。</li> </ul>
---

## 5. 成果指標

成果指標①		国籍や民族の異なる人々が互いの文化を認め合い、相互に交流、協力しあえるまちになっていると感じている市民の割合						出典	市民アンケート調査	
令和2年1月	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考	
初期値	59.8	目標値	60.0	61.0	62.0	63.0	64.0	65.0	%	
		実績値	未実施	67.3	67.1					
		達成率	—	110.3%	108.2%					%

  

成果指標②		外国籍市民が住みやすいと感じている市民の割合						出典	市民アンケート調査	
令和2年1月	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考	
初期値	49.6	目標値	50.0	51.0	52.0	53.0	54.0	55.0	%	
		実績値	未実施	61.5	59.2					
		達成率	—	120.6%	113.8%					%

## 6. 「施策の方針の成果指標」の達成状況等を踏まえた施策の達成状況の分析

### 共生共創部

・外部講師を招いて「みんなで考える難民問題」と題したワークショップを実施したほか、国際交流フェスティバルを開催し、国際交流や国際協力を行う市民団体の活動の活性化に寄与した。また、足利市との姉妹都市提携40周年を記念し、市内小学校で鎌倉・足利両市の郷土料理であるけんちん汁及び栃木県産の食材を使用した給食の提供を行うとともに、希望する学校では、足利市からの外部講師による特別授業をオンライン又は対面にて実施しており、これらの事業を実施することで成果指標の目標値を上回り、地域の国際化の推進に寄与し、多文化共生社会への理解に繋がったと考える。

## 7. 主な実施内容と施策の達成状況の分析を踏まえた評価

※主な実施内容と目標とするまちの姿の関係(達成状況とその理由)

「施策の方針にひもづく事務事業とその評価結果」における貢献度の分析

### 共生共創部

・関連団体等と協力しつつ、国際交流・国際協力への理解を深める取組を行ったほか、姉妹都市等との良好な自治体間交流を継続して実施するなど、国籍や民族の異なる人々が互いの文化を認め合い、相互に交流、協力しあえるまちの実現に寄与した。

## 8. 今後の方向性

### 共生共創部

・引き続き、国際交流・国際協力への理解を深められるよう継続的に事業を実施する。  
 ・外国籍市民に対して、市民通訳ボランティア制度の周知や活用により、市民同士が支え合う開かれた地域づくりを促進させ、国籍や民族の異なる人々が互いの文化を認め合い、相互に交流・協力し合い、外国籍市民が住みやすいと感じられるまちづくりを推進する。

## 9. 今年度(評価年度)の目標

### 共生共創部

・引き続き、都市間の連携の強化や交流を推進し、国際交流・都市提携の機運を高めていく。